

企画セッション

学会設立 20 周年を機に、これまで「研究部会小集会」として親しまれてきた各研究部会による報告会を、セッション G “企画セッション” へ名称を改め、さらには、実行委員会をはじめとする各委員会や、若手の会からの企画を盛り込むこととしました。これにより、研究発表会参加者へ広く参加いただき、研究発表会さらには本学会を通じての研究活動、社会活動が活発になされることをねらいとしています。

G1 中国における都市廃棄物の適正管理と循環利用の促進 — JICA プロジェクトの報告から課題、政策提案、日中協力の可能性を考える —

9 月 15 日(月) 第 1 会場 15:15 ~ 16:45

(物質フロー研究部会)

JICA 対中援助「都市廃棄物循環利用推進プロジェクト(2010—2015)」は、中国で深刻化している都市廃棄物の循環利用の促進のための国家政策の提案を主目的としている。本企画セッションでは、プロジェクトの中で取り上げたいいくつかの課題に焦点を当て、それぞれ中心的に関わってきた研究者からの報告を行い、中国社会が直面する都市廃棄物問題を検証し、問題解決に向けての課題を論じることとする。

中国の都市廃棄物問題への挑戦に当たっては、経済社会の発展・近代化が進む一方で、内在する経済格差、社会風土、慣習に起因する伝統的なごみの商取引、ゴミ質の特殊性、人々の行動様式等、複雑に絡んだ諸要素、また更に特有の行政・社会構造とも向き合わなければならない。このため、問題解決に、日本の経験・技術等の単純な移転では全く不十分である。しかしながら、山積状態の中国の都市廃棄物の問題は、看過できない重要課題であり、隣国日本として、その解決に向けてどのような形で協力を進めていくことが適切であるか、本学会及び学会員としても本格的に考えていく必要がある。

プログラム(敬称略)

1. 中国における都市廃棄物の循環利用の推進上の課題 (上智大学 柳下正治)
2. 中国における廃タイヤの適正管理と循環利用推進政策 (鳥取環境大学 松村治夫)
3. 中国における食品廃棄物の処理・資源化の課題と展望 (金沢大学 鈴木克徳)
4. 中国における包装廃棄物の循環利用推進に関する課題: EPR 政策導入に向けて (神戸大学 石川雅紀)
5. 青島市における家庭系廃棄物分別排出に関する政策研究 ((一財)日本環境衛生センター 小山博則)
6. 貴陽市の家庭系廃棄物分別回収実験における住民の意識・行動と今後の政策選好(南山大学 前田洋枝)

G2 プラスチックリサイクルシステムの最適化

9 月 15 日(月) 第 2 会場 15:15 ~ 16:45

(リサイクルシステム技術研究部会)

最適なりサイクルシステムは時代や環境条件により流動的だが、社会が許容できるコストとリスクの考え方について関係者の合意を得ておけば、変動に対する機動的な対応の可能性が高まると言える。そこで、現時点での妥当なシステムをコストとリスクの面から具体化し、将来性を検討してみたい。

プログラム(敬称略)

1. 趣旨説明: 吉岡 敏明(東北大)
2. 自治体におけるプラ処理費用の最適化: 境 公雄(大木町)
3. リサイクル事業者からみたプラスチックリサイクルの在り方: 菅尾 俊介(広島リサイクルセンター)
4. 技術から見たプラスチックリサイクルの在り方: 加茂 徹(産総研)

進め方:

各テーマについて上記4名が 10~15 分程度の話題提供を行い、引き続き意見交換を行う。

コーディネータ: 東北大学・吉岡 敏明

G3 バイオマス産業都市構想に向けた行政の取り組み

9 月 15 日(月) 第 3 会場 15:15 ~ 16:45

(バイオマス系廃棄物研究部会)

平成 25 年度より関係 7 府省(内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省)が共同で推進しているバイオマス産業都市について、今春、第二次選定地域として 8 地域を決定し、全国で 16 地域が認定された。本企画セッションでは、選定された産業都市から、行政としてのバイオマス産業都市構想の位置づけ、申請の準備段階の状況や背景、期待される地域波及効果、実施体

制、構想実現に向けた課題などをご紹介いただく。さらに、パネルディスカッションを通して、今後、この構想へ申請を予定している地域に向けてのメッセージを発信していただく。

プログラム

1. 事例紹介 1
2. 事例紹介 2
3. 事例紹介 3
4. パネルディスカッション

G4 熱・エネルギー供給と廃棄物処理施設(2)

9月15日(月) 第4会場 15:15 ~ 16:45

(廃棄物計画部会)

「グリーンイノベーション時代を見据え、3Rの推進時に環境負荷と温室効果ガス削減、資源・熱エネルギー回収を実現する効率的な運営・コスト負担の在り方から、従来の枠組みを問い直し、新たな廃棄物計画のあり方を提起できる活動」の活動方針に基づき、昨年からの国民的緊急課題である日本の熱・エネルギー確保に寄与するため、『熱・エネルギー供給と廃棄物処理施設』をテーマに部会活動を進めている。廃棄物処理施設を回収可能な熱・エネルギーを地域に供給する施設と位置付け、従来の枠組みを問い直し新たな編集作業を廃棄物処理計画へ反映する作業として、昨年は、“立地”と“規模”について論議した。今年は、その機能を十分果たすために、“対象廃棄物”の選択、分別はどうあるべきなのかを、これまで研究を続けてこられたパネリストの皆様に意見発表、論議していただき、今後の日本のエネルギー確保、廃棄物政策に役立てるものとする。

プログラム(敬称略)

司会進行: 臼井 直人(エクス都市研究所)

代表挨拶: 中村 恵子(健康・環境デザイン研究所)

コーディネータ: 田中 勝(鳥取環境大学)

1. 「市町村一般廃棄物処理計画の分別対象廃棄物と資源化方法」(公社)全国都市清掃会議
技術部長 荒井 喜久雄
2. 「製品プラスチック・容器包装プラスチックのリサイクルの動向」(一社)プラスチック循環利用協会
調査研究部長 阪口 修
3. 「廃棄物処理施設の熱・エネルギー供給から見た分別のありかた」さいたま市 環境局施設部
クリーンセンター大崎所長 三品 雅昭

進め方:

各テーマについてパネリストが15分程度の意見発表を行い、引き続きテーマについてパネリストによる意見交換、及び会場との質疑応答を行う。

G5 廃棄物処理法の現在

9月15日(月) 第5会場 15:15 ~ 16:45

(行政研究部会)

廃棄物処理法の位置づけが不明のまま毎年のように修正、加筆が繰り返えされ、最も実務的であるべき法が実は最もわかりにくいものになっている。法令に示されていないことは合法として次から次へと新しいビジネス形態が出現し、規制が後追いになるのは現実には避けられない事態ではあるが、その結果、法が求めるものがわからなくなるのは国民としても不幸なことである。市民生活に直結する廃棄物に関する法律を、規制側からではない様々な視点から検討して、現状とそこに含まれる問題点を探っていくことにする。

プログラム(敬称略)

1. 産廃事業の視点から 北村 亨 (北村行政書士・産廃コンサルティング総合事務所)
2. 排出者の視点から 岡山 朋子 (大正大学)
3. 地方中小自治体の視点から 栗島 英明 (芝浦工業大学)
4. 廃棄物処理法改訂私案 藤波 博 (廃棄物 3R 研究財団)

進め方:

各テーマについてパネリストが15分程度の意見発表を行い、引き続き会場との質疑応答、意見交換を行う。

コーディネータ : 溝入 茂 / 渡辺 浩平

G6 広島市の「ごみ非常事態宣言」、東京ごみ戦争などの経緯とその後

9月16日(月) 第1会場 10:45 ~ 12:15

(ごみ文化研究部会)

広島市では、昭和40年代ごみ排出量が急増し既存の埋立処分場の埋立終了を控える中で、地元住民の反対により新埋立処分場の計画が進まず、ごみが街に溢れる恐れが出てきた。広島市は昭和50年7月「ごみ非常事態宣言」を発し、ごみの減量化と分別収集の推進、ごみ処理施設建設時の十分な事前の環境評価の実施など万全を期す決意を表明した。

同市のごみ非常事態宣言に至る経緯、宣言後の取り組みとその後の状況など、緊急事態をどのように克服したかに焦点を当て、東京都のごみ戦争などの時代背景なども交えながら議論を進め、危機管理のあり方などについて考える。

プログラム(敬称略)

1. 挨拶及び基調講演

福岡大学教授 松藤 康司

2. 広島市の「ごみ非常事態宣言」までの経緯と宣言に基づく取り組み、その後の状況

広島市環境局施設課 横町 厚司

3. 東京都のごみ戦争をとらえて当時の時代背景を見る。

(株)JFE, 元東京都清掃局職員 小林 正自郎

コーディネータ : (株)アクトリー, 前(公財)廃棄物・3R 研究財団専務理事 八木 美雄

G7 排出事業者に求められること — 受入現場から見えてくる課題と対応 —

9月16日(月) 第2会場 10:45 ~ 12:15

(学術研究委員会)

廃棄物処理業は、他業界に比べて事故の発生頻度が高く、安全確保の努力が続けられている。また臭気対策や5Sなどの取組も更に強化し、透明性の高い業態に変わろうとしている。

産業廃棄物処理業経営塾OB会では、廃棄物処理の委託を請け負った者の立場から、受入の現場で発生している情報不足等の現状を踏まえて、安全と適正処理の確保の観点から問題提起し、その解決方策等について排出事業者と議論し検討を行った。

本セッションでは、産業廃棄物処理現場で経験するヒヤリハットや事故事例、処理業の社会的な責務の認知度の現状、有価物への偽装等の課題への対応について検討した結果を発表する。

プログラム:

【産業廃棄物処理における労働安全等に係る課題】

1. WDSは友達だ: 東日本Aブロック 株式会社オガワエコノス 岡 弘
2. 困っています! ~ 受入物の実態!! ~: 東日本Bブロック 株式会社都市環境エンジニアリング 及川 拓史

【廃棄物処理を行う上での課題(情報発信・コミュニケーション等)】

3. 処理業者が行う情報発信の在り方~あなたならどうしますか?: 中部ブロック 加山興業株式会社 河野 嗣寿
4. 真の循環型社会形成に向けて: 西日本ブロック 株式会社イボキン 村谷 厚治

進め方:

各テーマのワークショップリーダーから10分前後で研究発表をした後、5分程度の質疑応答を設け諸課題に関するディスカッションを行う。

G8 若手による若手のための交流の場

9月16日(火) 第5会場 10:45 ~ 12:15

(若手の会)

「若手の会」とは、正会員だけでなく学生会員も参加できる、若手のための集いです。学生、企業の若手社員、若手の行政者、若手研究者など、どなたでも参加を歓迎しています。

本セッションでは、「本年度の若手の会活動報告」と「みんなで考える廃棄物クイズ」の二つの企画を考えております。昨年度からリニューアルしたクイズ企画、廃棄物に関するクイズをみんなで考え、答えを導きだしながら廃棄物に関する知識を深めましょう。普段は接点が少ない他の大学・研究室だけでなく行政や企業の若手の方と交流を持てる絶好の機会ですので、みなさま奮ってご参加ください。また、学会初日(9/15)に国際交流として、韓国廃棄物学会の若手との意見交換会も予定しております。韓国の学生や若手研究者と一緒に研究の話だけでなく、異文化交流してみませんか。

市民展示（一般公開企画・無料）

環境に関わる主に広島市の市民グループによる展示を行います。ポスター掲示のみの団体もありますが、時間によっては説明人員が在席するブースもあります（在席予定はホームページおよび会場に掲示予定です）。

- 日時： 9月15日(月・祝) 10:45～18:15, 9月16日(火) 9:00～16:15
- 場所： 1F ロビー(エントランスホール)
- 展示団体

団体名

3R・低炭素社会検定
特定非営利活動法人 あいあいねっと

エコINNくろせく<食具企画>
EPO ちゅうごく

大崎上島 けんこう文化の島づくり協議会<15日発表>
くい環境会議
くれ環境市民の会<15日発表><食具企画>
NPO 法人 自然環境ネットワーク SAREN
しのエコ推進会
瀬戸内里海振興会
大学環境ネットワーク協議会 UE-net

脱温暖化笑こきたひろ
脱温暖化センターひろしま
脱温暖化ぬまくまフォーラム<15日発表><食具企画>
脱温暖化ネットおんど<食具企画>
脱温暖化プロジェクトせら
地球温暖化対策 はつかいちさくら協議会<食具企画>
廃棄物資源循環学会消費者市民研究部会<15日発表><食具企画>

HUG-YOU
広島県立広島国泰寺高等学校<15日発表>
福山北部脱温暖化地域協議会<食具企画>
布野の食と脱温暖化を考える会
能美脱温暖化未来会議

企画タイトル

第7回3R・低炭素社会検定実施のお知らせ
食品ロス削減と生活困窮者支援を同時に実現するフードバンク活動に取り組もう

活動紹介
EPO ちゅうごくは、人と人、そしてみんなの心(想い)と環境活動をつなぎます。

活動紹介

活動紹介

活動紹介

自然海浜の海ゴミ

活動紹介

海岸漂着物活動

広島県域の環境について活動する学生等のネットワークによる取り組み

活動紹介

活動紹介

活動紹介

活動紹介

活動紹介

活動紹介

①「C&G」「循環とくらし」紹介、

② 世界のごみ箱展、③ Welcome to 2R!

HUG-YOU とは??

水噴流を用いた水浄化の研究

活動紹介

活動紹介

活動紹介

● 関連実行委員企画1: ミニ発表会【1F ロビー奥】

15日の午後に、市民展示会場横に発表会場を設置し、希望する団体(上表中<15日発表>と記載)それぞれが5分程度の発表と意見交換を行うミニ発表会を行います。団体以外からの話題提供として、5名の先生にも発表いただきます。発表順は以下の予定です。

12:30- 話題提供: 愛媛大学 貴田晶子先生、京都大学 浅利美鈴先生、岡山アスエコ 中平徹也先生

13:15- 5団体成果発表

廃棄物資源循環学会消費者市民研究部会

広島県立広島国泰寺高等学校(水噴流を用いた水浄化の研究)

くれ環境市民の会

脱温暖化ぬまくまフォーラム

大崎上島けんこう文化の島づくり協議会

14:30- 話題提供: 京都府立大学 山川肇先生、学会編集事務局 鍛冶美行先生



● 関連実行委員企画2: マイ食具(モググ)持参推進企画II

マイ箸、マイカップ、マイボトルのいずれかを持参され、展示団体のうち協力団体(上表中<食具企画>と記載)のブースに申し出られた研究発表会登録者には、各ブース先着数名に100円相当のエコグッズを進呈いたします(お一人様、どこか一点のブースのみでお願いします:研究発表会登録者のみ)。エコグッズの内容は各団体のブースでご確認頂くこととなります。



全国環境研協議会研究発表会

地方環境研究所で構成される全国環境研協議会(全環研)と廃棄物資源循環学会の廃棄物試験・検査法研究部会との共催による研究発表会です。全環研からは地方環境研究所が行っている廃棄物に関連した研究発表を、廃棄物試験・検査法研究部会からは循環資材／再生製品と廃棄物の溶出特性化試験について情報提供をいただき、お互いの意見交換を通じて廃棄物などに関する諸問題について考えます。

- 日 時 : 9月16日(火) 9:00 ~ 12:00
- 場 所 : 10F 1006号教室
- プログラム: 1. 廃棄物研究発表会
地方環境研究所による廃棄物関連の研究発表
2. 情報交換会
廃棄物試験・検査法研究部会による情報提供
(循環資材／再生製品と廃棄物の溶出特性化試験)

意見交換会

- 日時 : 9月16日(火) 18:00 ~ 20:00
- 場所 : 2F リーフガーデン
- 参加費 : 参加申込方法をご覧ください。事前申込割引をぜひご利用ください。
- 申込方法: **【事前申込】**研究発表会専用ページからお申込みください。
※事前申込後、不参加の場合でも参加費の返金はいたしません。
【当日申込】2日目(16日(火))にのみ、開始時間まで受付にて申し込み頂けます。

施設見学会

廃棄物資源循環分野の最新の制度や取組事例の知見を共有することを目的に行う施設見学会を、以下の3コースご用意いたしました。皆様のご参加をお待ちしております。

- 開催日 : 9月17日(水)
- 集合・解散: 場所は共に広島駅新幹線口(コースⅡのみ福山駅解散あり)
- 申込方法: 研究発表会専用ホームページからお申込みください。
見学会参加には研究発表会への参加も必要です。
- 申込締切: 8月22日(金) ※先着順(締切日以降でも定員以下であれば以下の問合せ先にて受付けます
開催期間中は受付横で案内を掲示)
- 注意点 : 申込にあたってはセッションプログラムを十分ご確認の上、お申込みください。
参加者の都合によりキャンセルされる場合、参加費は返金いたしません。
道路状況などによっては解散時間が遅れる場合もありますので、余裕をお持ちください。
- 問合せ先: 実行委員会 施設見学会企画担当 乗越 晃 norikosi@cecnet.co.jp
※開催期間中の緊急連絡事項がある場合は受付横の掲示板で行いますので、ご参照ください。
- コース :

I 新規海面最終処分場およびPCB処理施設見学

一般財団法人広島県環境保全公社は、県西部地域から発生する廃棄物を適正に処理することにより、生活環境の保全や県内産業の発展に貢献する施設として、平成26年3月に新規の海面最終処分場を完成させ、6月から受入を開始しています。この処分場は、主な施設には集塵機などを設置し、廃棄物の受入から水中投入までを一貫して屋内で作業を行うことで大気中に廃棄物を飛散させない全国に例のない施設です。

PCB処理施設は、中国電力株式会社が平成13年に施行された「PCB特別措置法」を受け、自社で保有する柱上変圧器を適切に無害化処理するために、平成18年～19年に設置した施設です。柱上変圧器リサイクルセンターは真空加熱分離法を用いて部材に付着している絶縁油を分離させ、たうえで部材をリサイクルしています。分離した絶縁油は絶縁油リサイクルセンターでアルカリ触媒分解法により無害化処理したうえで、燃料としてリサイクルしています。

Ⅱ びんごエコタウン見学

福山市ごみ固形燃料工場は、家庭及び事業所から排出された可燃ごみ(一般廃棄物)を破碎・乾燥・選別・圧縮成形し、ペレット状の固形燃料(RDF)にします。製造工程を経て完成したRDFは、隣接する福山リサイクル発電所で処理されて電気エネルギーに変換しています。

エフピコは、スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどで使われる簡易食品容器のトップメーカーです。1990年より「トレー to トレー」の循環型リサイクルを構築し使用済みトレーをリサイクルしています。リサイクル製品である「エコトレー」は国内で使用されるトレーの25%を占めるまで普及しています。現在では、PET ボトルから透明容器に生まれ変わる「ボトル to トレー」のリサイクルも確立し循環型社会の構築に向け進化を続けています。リサイクル工場では、回収されたトレーや透明容器を選別し、「エコトレー」の原料となるペレットになるまでを見学していただけます。

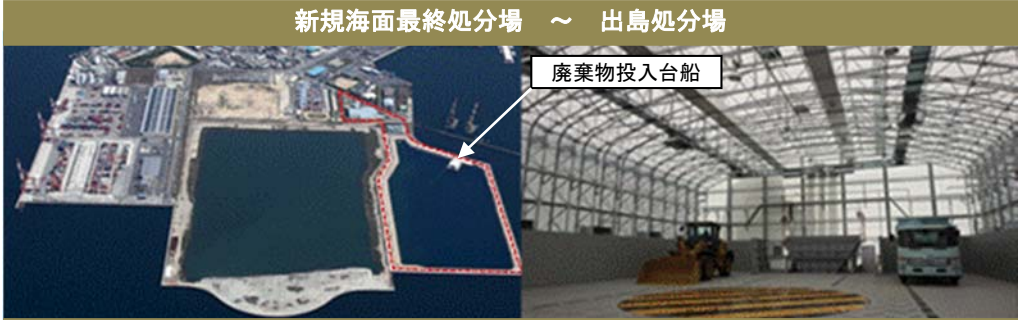
Ⅲ 下水汚泥燃料化施設およびごみ発電施設見学

広島市は、下水汚泥の有効利用による再生可能エネルギーの創出と温室効果ガスの削減を目的とし、下水汚泥を炭化物として燃料化して生成した燃料化物を近隣の火力発電所で利用する事業を開始しました。下水汚泥燃料化施設は西部水資源再生センター内にあり、燃料化施設の炭化炉の燃料には、再生センター内で発生する消化ガスを積極的に活用すると同時に従来の汚泥焼却施設を廃止したことで、温室効果ガスの大幅な削減を達成しています。本施設はわが国初となる低温炭化技術を採用しており、自動燃焼装置により、ごみを完全燃焼できるように制御しています。さらに、電気集塵機や有害ガス除去装置など公害防止設備を完備しています。

広島市安佐南工場は、大型ごみ破碎処理施設と焼却施設が設置されており、焼却施設は平成25年に竣工した最新設備です。また、施設の配置及びデザイン等は、周辺環境との調和を図り、魅力的な施設となるように景観配慮がなされています。焼却炉は連続運転式ストーカー炉であり、ダイオキシン類をはじめとする有害物質の排出の低減に寄与する高度な排ガス処理技術が導入されています。また、ごみ焼却により発生した熱を利用した高効率発電など、資源循環型社会の形成に資する施設です。

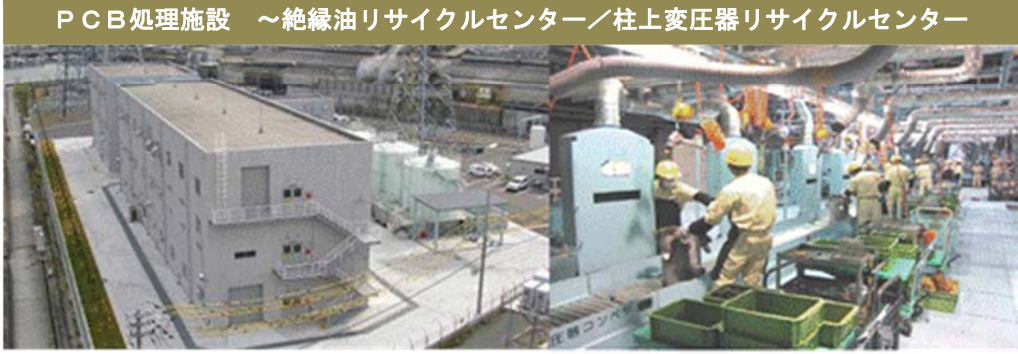
内 容	定 員	参加費
コースⅠ【新規海面最終処分場及びPCB処理施設見学】 9:00 広島駅新幹線口集合 ①広島県環境保全公社 出島処分場 [新規海面最終処分場] (昼食) ②中国電力株式会社[PCB処理施設] ・絶縁油リサイクルセンター ・柱上変圧器リサイクルセンター 17:00 広島駅新幹線口着	30名	2,000円
コースⅡ【びんごエコタウン見学-RDF製造・発電施設及び食品容器リサイクル】 8:00 広島駅新幹線口集合 ～ 鞆の浦～(休憩・昼食) ①福山市ごみ固形燃料工場および福山リサイクル発電株式会社[RDF発電工場] ～ メガソーラー(車窓)～ ②エフピコ福山リサイクル工場[トレー・透明容器リサイクル] 16:30 福山駅着 18:30 広島駅新幹線口着	40名	4,000円 (昼食代 500円込み)
コースⅢ【下水汚泥燃料化施設及びごみ発電施設見学】 9:00 広島駅新幹線口集合 ①広島市西部水資源再生センター[下水汚泥の燃料化施設] (昼食) ②広島市安佐南工場[ごみ発電施設] 16:30 広島駅新幹線口着	30名	2,000円

コース I



新規海面最終処分場 ～ 出島処分場

廃棄物投入台船



PCB処理施設 ～ 絶縁油リサイクルセンター／柱上変圧器リサイクルセンター

コース II

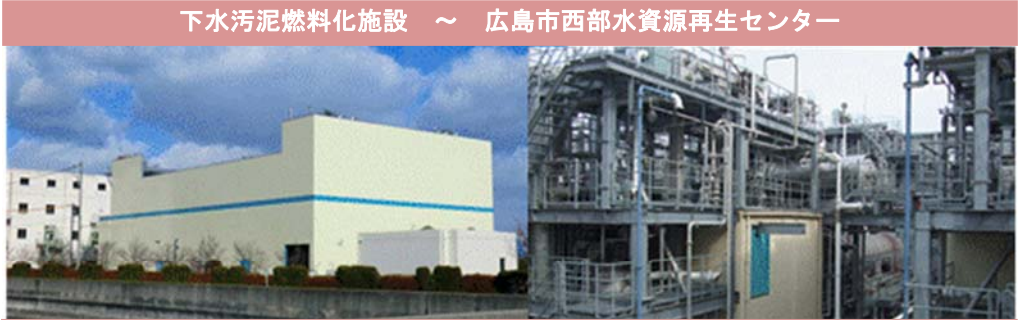


びんごエコタウン ～ 福山市ごみ固形燃料工場および福山リサイクル発電株式会社

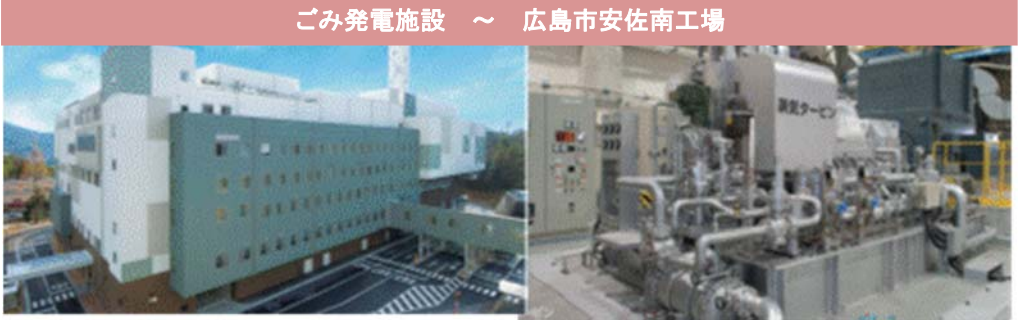


びんごエコタウン ～ エフピコ福山リサイクル工場

コース III



下水汚泥燃料化施設 ～ 広島市西部水資源再生センター



ごみ発電施設 ～ 広島市安佐南工場